

# 1-4. ナポレオン戦争

以下の問いを意識しながら読み進めてください

Q. ナポレオンが果たした歴史的意味（成果と課題）とは何か

# <国内> ナポレオンの歴史的意味

## 1. フランス革命により混乱した社会の安定

### ①フランス銀行の設立 (1800)

経済の安定に貢献し、フランス産業発展の基礎となる

### ②宗教協約 (コンコルダート) (1801)

#### 宗教協約の概要

革命において特権を剥奪されたカトリック教会勢力はその他の反革命と結びつき政情不安定をもたらしていた。ナポレオンは教会の指示を取り付けるため、カトリック教会の頂点であるローマ教皇と修好条約を締結。これを宗教協約 (コンコルダート) と呼ぶ。この中ではナポレオンがフランス国民のキリスト教信仰を認めることに合意した一方、ローマ教皇は革命期に没収された教会財産の返還は行わないことを承認した。

☆意義：政情の安定 + 教会による「所有権の絶対」の承認

これにより、教会勢力の指示を取り付けナポレオンは盤石の地位を築いた。また、教会側が没収されていた財産の返還を求めないことが承認され、フランス革命の重要な考え方であった所有権の絶対がローマ教皇によって承認された。

# <国内> ナポレオンの歴史的意味

## 2. ナポレオン法典の意義

ナポレオン法典には例えば以下の内容が含まれる

<所有権の絶対> 人間は願望を持って生まれてくる。それは食べたり着たりすることができなければならぬ。ゆえに人は自己の生存とその維持とに必要な物に対する権利を有する。それが所有権の起源である。だから**所有権自体は自然の直接的な制度**である。

<契約の自由> 適法に締結された合意はそれをなした当事者間では法律たるの効力を有する。

☆なぜ世界三大法典の一つとまで呼ばれるのか？

例えば、歴史家の杉本叔彦は『ナポレオン－最後の専制君主、最初の近代政治家－』で封建的秩序を否定し、「革命の成果である自由・平等を法の上に固定した」と評価している。つまり、フランス革命の理念が法的にも確立されたことに意義がある。

# <国内> ナポレオンの歴史的意味

## 2. ナポレオン法典の意義（続）

ナポレオン法典には以下のような記述もある

<家族の尊重> 夫は妻を保護し、妻は夫に服従する義務を負う。

☆ナポレオン法典の課題は何か

夫婦間の男女不平等の他にも植民地における奴隷制度の温存など、近世的な側面も残していたとも指摘されている。この点はこの後の時代の男女平等を求める運動にもつながっており、さらには現代にも引き継がれる課題であろう。

# < 国外 > ナポレオンの歴史的意味

## 1. 革命の拡大と輸出

### ① イタリア遠征 (1796)

フランス軍がオーストリア軍に勝利し締結したカンポ＝フォルミオの和約では、ナポレオンが北イタリアに樹立させたチザルピナ共和国が承認された。また、1798年にはローマに侵攻し、ローマ共和国の樹立も宣言していた。

☆ナポレオンによるイタリアへの影響は何か

特に北イタリアにおいては封建地代の廃止、10分の1税の廃止など改革が実行され、産業の発展と中間階級の成長も見られた。ナポレオンによって、自由と平等というフランス革命の精神がイタリアにもたらされたと評価がある一方、ナポレオンがイタリアをフランス帝国に組み込み、公用語としてフランス語を強要したことは、イタリア人の反発を招き、彼らの民族的自覚（ナショナリズム）を呼び起こすことともなった。

# < 国外 > ナポレオンの歴史的意味

## 1. 革命の拡大と輸出

### ② プロイセン改革（シュタイン・ハイデンベルク改革）

< 確認（プリントより） >

イエナの戦いで敗れ、ティルジット条約でフランスに対し大きな譲歩を余儀なくされたプロイセン王国は、敗戦の原因は封建的体制にあるとし国制の近代化を目指す改革を行った。農民解放令による身分制改革や内閣制の確立などの行政機構改革、都市自治の拡充などの地方行政改革、営業の自由・国内関税の廃止・税制見直しなどの経済改革などが進められた。この改革はドイツの国民意識を喚起し、ドイツ人の愛国心を呼び起こすことにつながった。

☆プロイセンは敗戦した結果、多額の賠償金を支払い、さらに領土の一部をフランス占領下におくことに同意せざるを得なかった。フランスに対抗するため上記のような改革を行った、「ナポレオンありき」の変革であったが、フランス革命と大きく異なる点は市民が中心となって変革したのではなく政府が主導権を握った「上からの改革」であった点である。

# < 国外 > ナポレオンの歴史的意味

## 1. 革命の拡大と輸出

### ③ スペイン反乱 (1808~)

< 確認 (プリントより一部追加) >

スペインは1796年以来フランスの同盟国であったが、さらに1808年ナポレオンはスペインの直接統治を目論みフランス軍を派遣した。これに対してスペイン民衆が各地で蜂起。これはフランス軍により鎮圧され、数百人のスペイン民衆が銃殺される(教科書 P.87 資料4参照)。フランス軍は傍若無人に行動し、各地で略奪や破壊を繰り返したが、1813年にナポレオンのロシアでの敗北とともにスペインのフランス軍も劣勢に陥り、撤退した。

☆「ヨーロッパを旧体制から解放する」という大義名分はどの程度ナポレオンによるスペイン侵攻に当てはまるかについては一考に値する。なぜ、ここまで領土拡大を進める必要があったかのかについては別の要素と関連させて理解する必要がある。

# < 国外 > ナポレオンの歴史的意味

## 2. 経済的動機

### ナポレオン戦争の背景：英仏の植民地争奪戦

トラファルガーの海戦以降の政策；

#### ① ヨーロッパ大陸の制覇

戦争に勝って占領地から巨額の賠償金と税金を取り立てること、ならびに市場の独占を企図

#### ② イギリスに経済的打撃を与える

大陸封鎖令：イギリス商品の大陸市場からの締め出し

< 確認（プリントより一部引用） >

フランスによるヨーロッパ市場の独占を目的とし、ヨーロッパの征服地に対してイギリスとの貿易を禁止した。また、イギリス工業製品がフランスに入ることによって、フランスの諸工業の自立・発展を図る目的もあった。しかし、イギリスへの穀物輸出が重要なロシアはこれに離反。その他の諸地域でもフランスによる強制的な締め付けに反発した。



# <作業>について

今回のスライドは、<作業2>の枠組みである国内と国外におけるナポレオンの成果（と課題）に沿って構成しています。

<作業3>のキーワードである「解放者」と「侵略者」は、言葉こそ出していませんが、それに関連させることができる知識含めて構成しています。